

あつまれ

鳥取県智頭

山口県祝島

滋賀県新旭  
(生水の郷・針江)

# 夏 休み 自然の中で はじけよう!!



大阪自然教室

〒530-0015 大阪市北区中崎西1-6-36-308号

Tel: 06-6372-5109 (木曜夕方のみ)

Web: <http://www16.ocn.ne.jp/~osk1561/>

独立行政法人 国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」助成事業

# ひんやい川でひと泳ぎ

## 「智頭自然教室：野原班」募集要項

- ◇ 日 程： 第一期 7月29日(朝)～8月2日(夕)  
第二期 8月2日(朝)～8月6日(夕)  
第三期 8月6日(朝)～8月10日(夕)
- ◇ 募集対象： 小二～小五
- ◇ 募集定員： 各期それぞれ15名(先着順)
- ◇ 募集期間： 6月22日～7月13日
- ◇ 参加費用： ￥29,000円
- ◇ 宿泊場所： 鳥取県智頭町野原集落の民家



楽しい夏休み、暑いからといってクーラーのきいた部屋でボーッとしているのはもったいない！さあ、智頭に行って遊ぼうよ！！

晴れた日には冷たい川で大はしゃぎ。タイヤの浮き輪に乗って、急流すべりをするのは最高だね！それに、高い岩から勢いよく飛び込むのもスリル満点、とても気持ちがいい！魚を見つけたら、頑張って手づかみで捕まえてみよう。もし捕まえたなら君はヒーロー！雨が降っても、お楽しみはあるよ。竹細工や小枝細工などのクラフトにチャレンジしよう。家の人へのおみやげに作るのもよし、自分のために作ってもいい。いくつ作るかは君のアイデア次第。

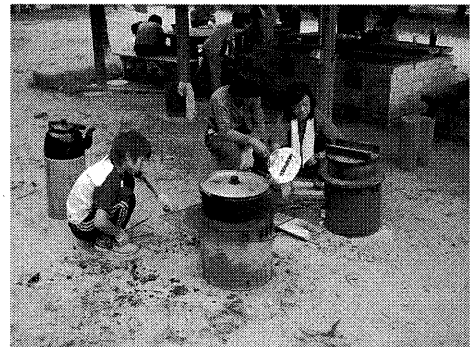
仲間とリーダーと遊んでいたら、あっという間に時間は過ぎていく。遊びつかれたら、おいしいご飯をもりもり食べよう。だれだい！「野菜はキライだ」なんていっている子は。近所のおばさんたちにいただいたとれとれの野菜は、大阪のスーパーの野菜とはひと味もふた味もちがうんだよ。そうそう、今リーダーたちも智頭でお米や野菜をいっぱい作っているんだ。でも、田んぼや畑の草取りはとっても大変！ぜひ、君にも手伝ってほしいな。ひと汗かいたら、君が畑でとったキュウリやトマトを丸かじりしよう！夜はカエルの鳴き声を聞きながら、夜空に散らばる星をながめて一日の疲れをいやそう。流れ星を見られなくても、星空をながめているだけで幸せにされるはず！それくらい智頭の星はきれいなんだ。

自然いっぱいの智頭には、最高の四泊五日が待っている。仲間とリーダーたちといっしょに、ステキな夏の思い出を作ろうよ！

# チャレンジしよう！大自然

## 「智頭自然教室：奥西班」募集要項

- ◇ 日 程： 8月6日(朝)～8月12日(夕)
- ◇ 募集対象： 小六～中三(小五も参加も検討)
- ◇ 募集定員： 15名(先着順)
- ◇ 募集期間： 6月22日～7月13日
- ◇ 参加費用： ￥33,000円
- ◇ 宿泊場所： 鳥取県智頭町奥西公民館がベースキャンプ
- ◇ 子供会議： 7月24日(日)午後1時半～4時半  
大阪自然教室事務所(地下鉄中崎町)



かつて24泊25日の『熱田』という伝説の企画があった。寝泊まりする部屋は寝返りをするスペースもなく、農機具小屋の軒先に支柱を立ててトタンを葺いて食堂とカマド場を設け、五右衛門風呂とドラムカン風呂には屋根がなかった。電気はきいて電灯と冷蔵庫はあるものの、便利な電気製品やガスコンロなどなかった。燃料はすべてマキ、前年に切り出してきて乾かしたものを、毎日割らなければならない。食事を作ってくれる人もおらず、お釜でのご飯炊きに失敗してベチャ飯になっても、おかげが少なくてもまずくても、誰に文句を言うことができない。ただそれを食べるしかない。

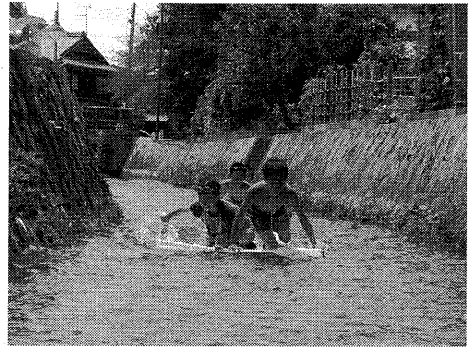
そう、『熱田』での生活はすべてを自分たちの責任で一から生活を創っていたねばならなかった。でも、なぜか楽しくて、最後の日が来ても大阪に戻りたくなっていた。それどころか、また次の年もきてしまう『ふるさと』になっていた。モタモタしていると、朝・昼・晩の食事を作るだけで終わってしまう。生活をしていくためのたくさんの仕事を、みんなで協力してテキパキと片づけて、川に泳ぎに行ったり、鉢伏山に登ったり、「お祭り」をしたりと遊ぶことはたくさんあった。

昨年からは智頭での「熱田」復活を図っている。日程も4泊5日から6泊7日に延長し、場所も「山郷・中原キャンプ場」から奥西集落の公民館に移す。ここをベースキャンプに、自分たちで生活を創ってもらおう。食材を調理し、お米は簡易カマドで炊いてもらう。もちろん火力はマキ、スパーンと一発で割れたら気持ちがいいぞ～。テントを担いで的那岐山への登山や土師川の上流探検にチャレンジしよう！テントを張ったりするのも、君たちに身につけてもらう基本的なスキルだ。

# 命めぐる川端のある暮らし

## 「生水の郷自然教室」募集要項

- ◇ 日 程 : 8月22日(朝) ~ 8月25日(夕)
- ◇ 募集対象 : 小三 ~ 小六
- ◇ 募集定員 : 13名(先着順)
- ◇ 募集期間 : 6月24日 ~ 7月13日
- ◇ 参加費用 : ￥22,000円
- ◇ 宿泊場所 : 滋賀県高島市新旭町針江「生水の家」



琵琶湖の西にある生水の郷・針江ではあちこちから湧き水が出ている。10メートルも鉄管を打ち込むと水が湧き出てくるので家庭には「川端」がある。湧き出した水が最初にたまる壺池の水は飲み水や顔を洗うのに使う。ここで冷やしたトマトやキュウリは格別においしい！壺池からあふれ出た水がたまる端池では、お米を洗ったり食後の洗いものをする。ご飯つぶや野菜くずは端池で飼われているコイが食べてくれる。さらに端池の水は外の水路を通過して針江大川となり、琵琶湖へと流れ込む。

川底まですきとおった針江大川には、きれいな水でしか育たない梅花藻がたくさん水にゆれている。ちょうどキミたちが行く頃には、白くて可愛い花が咲いている。琵琶湖からのぼってきた小アユがどの水路にも泳いでいるから、みんなで力を合わせて魚を追い込むと、反対側でかまえていたアミにはもうアユが入ってる！タイミング良くアミをあげないと、逃げられてしまうぞ。針江大川の藻の中に手を入れて、大物の魚の手づかみにも挑戦しよう。指先をかすめた魚の感触におどろかないで、サッとつかめるかな？そう、とった魚を全部食べるのが針江でのお約束。おもしろいほど魚がとれるからといって、とりっぱなしはナシだ。魚をさばくのは、最初はちょっと勇気がいるかな？でも、自分たちでとった魚は、格別においしいこと間違いなし。

針江集落では、昔から年4回針江大川や河口の船着き場の藻刈りをして、環境を守っている。毎年行っている自然教室の分担場所はお寺の池。今年もに池に侵入した外来種・オオカナダモをとるのをお手伝いします。とれたての魚と野菜、それから生水の水で炊いたご飯を食べたら、もう幸せいっぱい！お風呂に入って早めに眠ろう。明日も楽しいことがたくさん待っている。

# 真っ赤な太陽、青い海

## 「祝島自然教室」募集要項

- ◇ 日 程 : 7月22日(朝) ~ 7月26日(夕)
- ◇ 募集対象 : 小四 ~ 小六(小三の参加は検討)
- ◇ 募集定員 : 16名
- ◇ 募集期間 : 6月24日 ~ 7月13日
- ◇ 参加費用 : ￥37,000円
- ◇ 宿泊場所 : 山口県上関町祝島の公民館



照りつける太陽とキラキラ光る海、もちろん、泳ぐしかない。島の周りは全部海だから、どこでも泳ぐことができる。水中ゴーグルを持って、さあ、海に出かけよう。潮が満ちている時には、東の波止場の高い防波堤から飛び込もう！ちょっと高さがあるから最初は勇気がいるけど、仲間に励まされて一度飛び込めば、もう病みつきになること間違いなし。引き潮の時は磯に行こう！磯には貝、カニ、ウニ、タコなど、海の生き物がたくさんいるよ。

祝島の集落は北側に固まっているけど、足をのばして反対側の三浦湾にも行ってみよう。この海岸は珍しい粒ぞろいの小石の浜。三浦湾に面した棚田は、人間の背よりも高く積まれた石組の棚田が何段も重なり、本当に天まで昇るっているようだ。見事な棚田には耕作をやめた放棄田が増えているが、そこの氏本農園にも行ってみよう。氏本さんは放棄田にブタを放して、畑に復元している。ブタさんたちの働きぶりをぜひ見てみよう。(氏本さんはブタを豚田兵と呼んでいる)

海で遊ぶことに疲れたら、気分転換に「未来に残したい漁村の文化遺産」に選ばれた集落の中を探検しに行こう！台風強い風をさけるため、瓦は白い漆喰で固められ、「練塀」と呼ばれる分厚い石垣に囲まれた独特の家々と海とが一体となった風景は、きっと君の心に強く焼き付くはずだ！たっぷり遊んでお腹が空いたら、ご飯の準備をしよう。毎日、食卓には漁師さんから差し入れてもらう新鮮な魚が並ぶ。どうやって食べたらおいしいかな。島のおばさんたちに聞いて、魚のさばき方も教えてもらおう。おばさんたちはスイスイと魚を三枚におろしていく。君にもできるかな？

# おかあさん・おとうさんへ

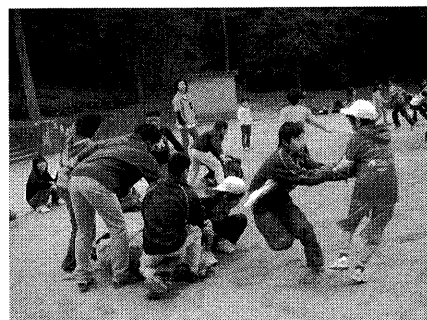
昨年の夏の企画とはかなり変更した点があり、検討に時間がかかり募集要項の発送が遅れまして申し訳ございません。同封しました申込用紙（兼健康調査票）に必要な事項をもなく御記入のうえ事務所までお送りください。受け付けましたら、集合・解散の場所と時間、持ち物や参加費用の振り込みについての案内をお送りします。（二つの企画に参加することも可能）

創設以来36年間続けてきました兵庫県美方町（現、香美町）での“美方自然教室”は、低学年向けの『貫田班』は7年前から鳥取県智頭町那岐地区に移して“智頭自然教室”としました。高学年向けの『熱田班』はそのまま残していましたが、それも3年前に終了してしまいました。昨年『熱田班』の復活を目指して、小学生高学年・中学生対象に“智頭自然教室：山郷班”の企画を4泊5日で実施しました。今年も、場所は山郷地区・中原集落から那岐地区・奥西集落に移し、6泊7日に延長してチャレンジします。これに集中するため、小六～中学生対象の“四万十自然教室”は今年も休止します。

アトピーの子どもたちが増えてますが、申込用紙の「アレルギーがありますか」の欄に内容と対処について詳しくお書きください。特に除去する食材がある方は必ず連絡下さい。“智頭自然教室：奥西班”の食事は細かい配慮はできそうにありませんが、他の企画では対応できるように検討しています。しかし、完全な代用食・除去食はできませんし、その程度や内容によって、“智頭自然教室：野原班”ではリーダーの配置によっては参加していただく日程を指定する場合があります。いずれにしても、事前に相談しながらすすめていきます。

## 大阪自然教室（sinse1973～）のこだわりは“子どもの群れ”

1973年、大阪の自然保護団体「自然を返せ！関西市民連合」で活動していた20才前後の若者たちが、都市の子どもたちに自然体験の場を提供することを目的に活動を開始しました。会員時代（小学二年～中学三年）を終えた者たちがリーダーの七割ほどを占め、すべての企画・運営をリーダーたちの自己責任によって引き継がれ、今年の8月から39年目に入ります。「子どもは異年令の群れで育つ」をモットーに、こんなことをしているのを学校の先生や親が見たら怒られるだろうなー、といったヤンチャな時間と空間を子どもたちと「共に育つ」場として共有し、遊ぶ施設や道具がなくても仲間たちと創意工夫をして遊べばおもしろいぞ、とひたすら子どもたちと自然の中で遊んできました。に自然を頭で理解するのではなく、自然のおもしろさ・楽しみを五感をフル動員して体感して欲しいと願って活動を続けてきました。



もう一つ、自分たちの命を支える第一次産業の農業や林業や漁業にこだわって企画を立てています。宿泊の企画も野外活動センターや少年自然の家などの既存の施設は一切使わず、自然の豊かな所＝過疎地の山間地や離島に住むおじさんおばさんたちの懐に飛び込み、農作業や山仕事などの生産活動をしている横におじゃまし、おじさんおばさんたちにかまってもらいながら長年継続して同じ場所で活動してきました。活動場所が「こんにちば」と訪れる観光地でなく、子どもたちにとって「ただいま」と帰れる“ふるさと”にと願ってきました。

## 大阪自然教室の夏企画の特徴は、小規模であること、そして活動地

大阪自然教室のこだわりから立案された企画の特徴は、企画の規模は12～16名と小規模であること。また、基本的に子どもと行動するリーダーは5～7名、さらに、賄いなど活動を支えるリーダーが2名配置され、初めての子どもたちがきてもきめ細かく対応できる体制をとっています。

そして、なんといっても最大の特徴は活動地です。現在、山間地や離島では急速に過疎化・高齢化が進んでいます。そんな中であって、いずれの地も住民が自らの力で地域を活性化させようという頑張っている所ばかりです。特に、上関原発が沖合3キロの目の前に計画された祝島では、島の豊かな自然と原発は共存しないと、巨額の前払補償金を拒否して29年間も島ぐるみで反対運動を続けています。ここ2年、国の後押しを受けた中国電力は、地球温暖化の切り札としてのクリーンなエネルギーを錦の御旗に掲げ、度々アセスメント調査を強行しようとしてきましたが、その度に祝島の人たちは跳ね返してきました。昨年の夏に訪れた時にも、中国電力は調査をしようとしており、それを阻止するため猛暑の炎天下の中で交代で座り込みをされている最中でしたが、快く迎えていただき例年どおり実施することができました。

また、生水の郷・針江も、今森光彦さんが撮影したNHKのドキュメンタリー「里山・命めぐる水辺」で一躍注目をあびましたが、集落の人たちによって「生水の郷委員会」が設立され、行政に頼らず環境保全活動や地域づくりに取り組んでいます。鳥取県智頭町は、集落住民が全員参加して立ち上げた集落振興協議会によって集落活性化を実行していく<sup>1</sup>/0運動（ゼロ分のイチうんどう：無から有を生み出す活動）や百人委員会（公募で参加した町民たちが検討した内容を施策に反映させる）などで注目を集めています。

これらの人々と連携をして、大阪自然教室との交流を通して、地域の活性化に少しでも役に立てたらと考えています。

夏企画の問い合わせは、西村（090-1149-4326）までご連絡ください。